

## 紳士用ワイシャツの着心地に影響を及ぼす要因について

○八木有里子 伊藤紀子

(鳥取大)

〔目的〕サラリーマンの仕事着、通勤着として欠かせない紳士用ワイシャツは、試着をすることもなくおもに衿まわりとゆき寸法を基準に既製品として購入されることが多いため、メーカー、ブランドによってサイズ、デザイン、素材の微妙な違いが生じ、着心地に何らかの影響を及ぼしていると推測される。そこで本研究では、着心地に影響を及ぼしている要因を被服圧を中心に検討した。

〔方法〕市販の紳士用ワイシャツ(衿まわり39cmゆき78cmA形、白無地)を13種類選定し、平均年齢40.4歳の成人男子9名に着用させた。「全体的な大きさ」「衿こしの高さ」「衿まわりのゆとり」「衿のやわらかさ」「袖丈の長さ」「袖幅の広さ」「袖口の大きさ」「肩幅の広さ」「背中のゆとり」「胸のゆとり」「肌触り」「総合評価」の12項目からなる着用感の主観的評価および頸部(前面、右斜め前面、左斜め前面、右側面、左側面、後面)、上腕部(前挙、側挙)の被服圧測定を行った。さらに、身体寸法、紳士用ワイシャツの形状およびワイシャツ地の力学特性についても測定し、これらの結果を分析した。

〔結果〕主観的評価項目間において、総合評価と危険率1%以下で高い相関が認められた項目は、「肌触り」「衿のやわらかさ」「背中のゆとり」であった。「肌触り」「衿のやわらかさ」は試料の厚さおよび台衿の厚さと高い相関が認められた。衿まわりの圧迫感と頸部の被服圧との関係における快適被服圧レベルは $10\text{gf}/\text{cm}^2$ 以下であり、 $10\text{gf}/\text{cm}^2$ をこえる場合には「ややきつい」の評価になる傾向がみられた。頸部の被服圧は、静立位で $3\sim 4\text{gf}/\text{cm}^2$ 、右回旋および左回旋で静立位の約2倍、屈曲で約0.7倍、過伸展で4~5倍であった。